

第14章 福島県立図書館

第1節 概要

1 運営の概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した『福島県立図書館「学びの環境づくり」』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成25年度に策定した『福島県立図書館アクションプラン（第2次）』（平成25年度～29年度）の4つの方針・9つの行動に基づき読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。

また、平成27年2月に策定された「第三次福島県子ども読書活動推進計画」（平成27年度～31年度）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んでいる。

平成27年度の主要イベントとして、「入館者700万人達成記念イベント（10月28日）」「読書週間事業（午後9時まで開館時間を延長：10月31日）」を行った。

『福島県立図書館アクションプラン（第2次）』 4つの方針・9つの行動

- I 東日本大震災等により失われた読書環境、学習環境を取り戻します。
 - 1 東日本大震災等の記録をのこします。
 - 2 支援体制の基盤を整備します。
 - 3 読書環境、学習環境の整備を通じて「ふるさと再生」を支援します。
- II 県民一人ひとりのお役に立てるよう図書館環境を整えます。
 - 1 県民が必要とする情報を提供します。
 - 2 県民が利用しやすい環境を整備します。
 - 3 県民と共に歩む図書館を目指します。
- III 福島県の子どものための読書活動を推進します。
 - 1 「第二次福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、県立図書館の役割を果たします。※現「第三次」
- IV 「図書館の図書館」として、図書館の振興を図ります。
 - 1 図書館・公民館の活動を支援します。
 - 2 高等教育機関、文化施設等関係機関との連携を図ります。

2 図書館協議会

(1) 図書館協議会委員名

[任期：平成27年10月21日～平成29年10月20日]

区分	氏名	所属団体等（主な役職名等）
学識経験者	千葉 養伍	福島大学人間発達文化学類（学類長・教授）
	土田 節子	いわき明星大学教養学部地域教養学科（非常勤講師）
	鎌田 喜之	株式会社福島民報社（編集局次長・地域交流室次長・販売局次長）
	加藤 卓哉	福島民友新聞社株式会社（取締役 論説委員長）
	山崎 由美	公募
	横山 秀人	公募
家庭教育	矢吹 貴美	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会
社会教育	渡辺 峯子	福島県公共図書館協会（須賀川市岩瀬図書館長）
学校教育関係	杉内 聡恵	福島県高等学校長協会（福島県立本宮高等学校長）
	田代 新一	福島県中学校長会（猪苗代町立吾妻中学校長）

（会長）千葉 養伍 （副会長）土田 節子

(2) 会議

開催日 12月4日 於：県立図書館

議題等

- ・平成27年度図書館利用実績（4月～10月分）について
- ・「福島県立図書館アクションプラン（第2次）」の取組状況について

第2節 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン（第2次）」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成24年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実に継続して行った。

1 図書館資料の収集

(1) 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊物は主要なものを収集、年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

(2) 地域資料の収集

福島県に関する資料の収集に努め、福島県人著作の収集は話題性等を考慮し購入した。非売品等の資料については出版した個人・団体・機関等へ寄贈を依頼し収集した。

行政資料についても各自自治体・部局へ資料収集の依頼を行い、特に県職員全員へメールで要請を行うなど積極的な収集に努め、当館HPの「行政資料一覧」を更新した。購入冊数 931冊に対して寄贈された冊数は3,800冊を越えた。

震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料に関しては、HP上やチラシ等で寄贈のお願いを掲載し、約1,500冊を収集し地域資料の約21%に及んだ。重点収集とした歴史の変遷を辿る地形図は県下を網羅できず継続購入とした。

(3) 地域視聴覚資料の収集

震災関連資料及び合唱・吹奏楽関係の資料を主に収集した。地元新聞のCD-ROMなど保存価値の高いものは継続的に収集し提供している。

(4) 児童資料・研究資料の収集

ア 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、東日本大震災に関する資料やユニバーサルデザインや多文化に対応した資料の収集に努めた。

イ 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。

重点収集として、子育て支援に役立つ資料の収集に努めた。

(5) 逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的かつ高度な調査相談に対応できる資料を幅広く継続収集した。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

(6) 市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地地域の読書活動に役立たせるため、新刊書を中心に、

話題性の高い文芸書や生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況

(単位：種)

区分	購入	寄贈・他	計
新聞	25	58	83
雑誌	236	847	1,083
官報等	3	0	3
合計	264	905	1,169

資料受入状況

(単位：冊)

区分	購入	寄贈・他	計
一般資料	4,223	1,675	5,898
地域・行政資料	931	4,567	5,498
児童図書	2,118	355	2,473
児童図書研究書	435	37	472
市町村支援資料	675	1,406	2,081
合計	8,382	8,040	16,422

資料受入状況・推移

(単位：冊)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
24,521	22,755	16,422

(7) 特殊文庫の受入

福島県出身の詩人で、文芸評論家や児童文学者としても活躍した長田弘氏が平成27年5月3日に逝去された。その後、遺族より長田氏の蔵書類約8,500冊を当館に寄贈したいとの申し出があり、当館の特殊文庫「長田弘文庫」として受け入れることとした。11月から資料整理作業を開始し、文庫開設は平成28年度内の予定。

分類（区分）	26年度累計	27年度増加	27年度除籍	利用替え	27年度累計	
一般資料	0 総記	31,496	493	7	2	31,984
	1 哲学	25,266	255	9	0	25,512
	2 歴史	62,755	772	12	14	63,529
	3 社会科学	102,084	1,699	61	5	103,727
	4 自然科学	35,191	536	19	0	35,708
	5 工学・工業	33,957	570	37	11	34,501
	6 産業	27,360	357	10	1	27,708
	7 芸術	39,191	505	29	15	39,682
	8 語学	9,263	65	10	1	9,319
	9 文学	90,722	646	27	34	91,375
計	457,285	5,898	221	83	463,045	
地域資料	0 総記	16,423	442	1	3	16,867
	1 哲学	2,574	39	2	1	2,612
	2 歴史	35,025	714	3	22	35,758
	3 社会科学	59,823	1,981	8	3	61,799
	4 自然科学	8,874	321	0	3	9,198
	5 工学・工業	12,888	477	4	3	13,364
	6 産業	20,375	539	2	4	20,916
	7 芸術	15,381	383	2	3	15,765
	8 語学	831	32	0	2	865
	9 文学	26,457	570	1	27	27,053
計	198,651	5,498	23	71	204,197	
児童資料	研究資料	34,742	472	18	51	35,247
	児童図書	105,680	2,473	245	816	108,724
	計	140,422	2,945	263	867	143,971
逐次刊行物資料	雑誌	149,203	5,105	142	0	154,166
	新聞合本	14,890	160	0	0	15,050
	新聞記事ファイル	3,823	4	0	0	3,827
	計	167,916	5,269	142	0	173,043
特殊文庫	61,753	0	0	0	61,753	
館内用計	1,026,027	19,610	649	1,021	1,046,009	
市町村支援計	65,224	2,081	4,811	-1,021	61,473	
合計	1,091,251	21,691	5,460	0	1,107,482	

第3節 館内奉仕

開館日は288日、入館者は162,594人、1日平均565人の利用があった。震災の影響で平成23年度に大きく落ち込んだ入館者数だが、震災前（平成22年度）の7割程度に回復してきている。しかし大きな伸びはない。

入館者数

開館日数	288日
入館者数	162,594人
（1日平均）	565人

入館者数・推移

（単位：人）

平成25年度	平成26年度	平成27年度
174,911	167,097	162,594

1 調査相談（レファレンス）

県内外から、日常の生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答している。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けている。総件数は昨年度より減少したが電話、文書、電子メール等の非来館での受け付けが増えている。

また、当館のホームページについては、トップページや「蔵書検索」へのアクセスが増加した。特に県内の図書館の所蔵資料を検索する「横断検索」の利用が大きく伸びた。

調査相談件数

（単位：件）

	一般・地域・逐刊	児童資料	小計
口頭	7,396	2,801	10,197
電話	1,415	106	1,521
文書	41	3	44
FAX	36	0	36
電子メール	128	2	130
合計	9,016	2,912	11,928

調査相談件数・推移

(単位：件)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
11,585	12,133	11,928

ホームページアクセス件数

(単位：件)

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
トップページ	130,593	135,196	148,481
蔵書検索	312,662	433,057	439,340
横断検索	322,396	237,057	399,524
デジタルライブラリー	6,410	5,069	4,684
こどものへや	3,842	4,052	3,489
県内図書館(業務用)	15,717	13,408	—
利用案内	14,717	13,247	14,128

2 館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン(第2次)」を踏まえ、図書館資料の提供や各種講座の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

また、5月から新聞記事閲覧システムにおいて、来館により『福島民報縮刷版』[昭和51(1976)年10月-平成13(2001)年12月]の「県内政治」の記事見出しに含まれるキーワードでの記事検索ができるようになった。

さらに、12月より、当館のホームページから全ての所蔵資料(貸出可能なもの)の予約ができる新Web予約サービスを開始した。

3 館外個人貸出

登録者数は14,141人、貸出冊数は140,598冊、のべ人数は38,426人で、昨年度より若干減少した。

直接自宅へ資料が届く資料宅配サービス(有料)の利用は、32件、冊数は219冊で、昨年度より増加した。

館外個人貸出状況

分類	冊数	構成比(%)	分類	冊数	構成比(%)
総記	1,745	1.2	語学	1,299	0.9
哲学・宗教	4,210	3.0	文学	19,687	14.0
歴史・地理	7,002	5.0	地域資料	7,402	5.3
社会科学	11,141	8.0	新聞雑誌	8,609	6.1
自然科学	7,152	5.1	小計	86,458	61.5
工学・工業	6,635	4.7	児童	54,140	38.5
産業	3,411	2.4	合計	140,598	100.0
芸術	8,165	5.8			

館外個人貸出状況・推移

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
冊数	130,545	141,191	140,598
のべ人数	36,274	39,591	38,426

館外個人貸出登録者数(登録有効期間3年)(単位：人)

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合計
新規	3,285	3,577	3,145	10,007
更新者	1,452	1,260	1,422	4,134
合計	4,737	4,837	4,567	14,141

館外個人貸出登録者数・推移 (単位：人)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
12,773	14,595	14,141

4 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸出先	件数	冊数
官公庁関係	9	351
図書館その他	54	356
会社・事業所	13	134
報道関係	0	0
学校	38	48
計	114	889

特別貸出状況・推移 (単位：冊)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
586	1,134	889

5 一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。時事展示として、図書館振興月間に「“図書館”に出会おう」、夏休みの親子向けに「子どもたちの教科書を見てみよう!」、読書週間に「福島県立図書館30年間のジャンル別・貸出ランキング」、成人の日に合わせて若者に薦める「BOOKS FOR YOUTH～今しかみられないもの～」など7回実施。ミニ展示としては「ガーデニング～花のある生活～」 「気持ちを伝えよう～手紙の本～」 「本で世界を巡る」 「涼涼怪談」 「戦後70年戦艦や戦闘機で振り返る第二次世界大戦」 「実は奥深い! 図録を読んでみませんか?」 「雪山の風景」、福島県立博物館移動展に合わせた「恐竜とその時代の生き物たち」など15回実施した。

さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」を作成し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

6 地域資料

地域資料については、県内外の個人・団体などから様々な調査相談が寄せられていることから、迅速な対応を心がけ、的確な回答を導き出せるよう調査に取り組んだ。

企画や講座に併せ、ふくしまデスティネーションキャンペーン時には「出かけてみよう！まだまた知らない 福島の魅力」、「尾瀬に親しむ」「福島民報出版文化賞の38年」「禅と文、そして福島を生きる作家 玄侑宗久」「須賀川の銅版画画家 亜欧堂田善」などのミニ展示を12回実施し、パスファインダー「本の森への道しるべ」を6本作成し、資料の紹介に努めた。

10月31日に実施した読書週間事業「秋の夜長を図書館で」では特別展示として『阿武隈川水路図』全長13mの全容を初めて公開した。

また、書棚の見出しを整え、利用されやすい工夫を行った。

館外への貸出は例年と変わらず歴史地理部門が多く、地域資料の貸出冊数の36%を占め、東日本大震災関連資料は地域資料の貸出冊数の14%に留まった。貸出冊数全体は震災前平成22年度並であった。

貴重資料の撮影及び掲載許可の申請は20件程あり、デジタル化は平成8年度より継続して実施しているが、今年度より所蔵する『郷土誌』の作成を開始した。

7 逐次刊行物

東日本大震災・原発事故から4年が経過し、復興を記録する『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を平成27年12月31日現在までに更新し、ホームページに掲載した。

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存館、現行受入新聞一覧』について、避難している大熊町、富岡町、双葉町、浪江町の4町以外から回答を得て発行した。

ミニ展示・軽読書コーナー展示については、毎月展示替えを行い「時代の流れをふりかえる」「おいしいものを食べて元気になろう！」など話題性や季節に配慮した。

パスファインダー「本の森への道しるべ」は、新規で2本作成し、2本の改訂を行った。

8 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

(1) こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行った。また、「子ども読書活動支援コーナー」では、読書活動関係者に対して情報提供を行った。

(2) おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」（毎月第2木曜日）や児童を対象に以下の「おはなしかい」を開催した。

・「夏の図書館ミステリーツアー」（8月18日～21日）

小学校の夏休みに合わせて、図書館の書庫探検を行い併せて、怖い話のおはなしかいを実施した。

・スペシャルクリスマス in 図書館（12月19日）

美術館の学芸員によるクリスマスの工作と、クリスマスの絵本の紹介と読み聞かせを行い、近づくクリスマスの気分を高めるおはなしかいを開催した。

・こども向け科学講座「火山の仕組み-吾妻山はいきている」と山のおはなしかい（12月23日）

磐梯山噴火記念館副館長の佐藤公氏による講座と火山に関する資料を紹介するブックトークを実施した。

・「ミステリーツアー～クリスマスバージョン～」

（12月24日）

小学校の冬休みに合わせて、図書館の書庫探検を行うクリスマスに関する資料や絵本の紹介をした。

(3) 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

(4) 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌『LITTLE BIG』や児童サービス関連情報誌『児童図書研究ニュース』を発行し読書普及のための情報提供に努めた。

(5) 「子育て支援コーナー」の運営

子育てに役立つ図書や雑誌の展示や関係各課からのパンフレット配布等、情報提供に努めた。また、親子で楽しむ「わらべうた」「昔話」「料理」などのテーマ展示を行った。

(6) 子ども読書と科学のコラボ事業

科学のテーマ展示「天気」「自由研究」「新幹線」「宇宙」などを実施し資料を紹介した。

9 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成24年度より「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し、利用に供している。所蔵数は、平成28年3月11日現在で9,457タイトルとなっており、一覧リストを作成しHPにアップすると共に関係機関へ配布した。また、資料紹介として「ブックガイド」を刊行し利用促進を図った。

さらに、「巡回する福島県復興ライブラリー」として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し活用を図っている。今年度は、茨城県筑西市立中央図書館（平成27年4月1日～5月10日）、栃木県宇都宮市立中央図書館（平成28年2月3日～3月14日）、東京都杉並区立成田図書館（平成28年3月4日～4月6日）の3箇所出張展示が開催された。

10 特殊文庫・貴重資料紹介コーナー

平成28年2月より新設。壁面にて各特殊文庫概要紹介パネルの掲示をはじめ、資料の一部配架や展示ケースにて貴重資

料の展示などを行い、当館所蔵の特殊文庫や貴重資料の紹介に努めた。

1.1 複写サービス

コイン式コピー機は1台、レーザープリンター1台、カラープリンター1台、マイクロプリンター2台での対応となっている。資料媒体を変化させて保存することから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

複写利用状況

区 分	件 数	枚 数
自・他館処理	4,736	51,994

複写利用状況・推移 (単位：枚)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
59,778	55,808	51,994

1.2 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を一般用に6台、こどものへやに1台設置し、情報提供の便宜を図っている。

また、当館職員による「はじめてのインターネット使い方講座」を2回にわたって実施し、インターネット利用の啓発を図った。

インターネット利用状況

区 分	人 数
一 般	6,658
児 童	52
合 計	6,710

インターネット利用状況・推移 (単位：人)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
5,699	6,790	6,710

1.3 展示

(1) 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

ア 「受賞児童図書展」(4月3日～5月6日)

平成26年度、国際アンデルセン賞作家賞を受賞した上橋菜穂子さんを中心に、世界の児童文学賞「国際アンデルセン賞」「カーネギー賞」「ケイト・グリーンウェイ賞」「コールデコット賞」「ニューベリー賞」を紹介し過去10年の受賞図書を展示した。

併せて、各賞を紹介するパスファインダーを作成し配布した。

イ 「山への誘い」(5月8日～6月3日)

新緑鮮やかな季節、山の魅力を伝える資料を3つのキーワードに区分して展示し紹介した。「見る」では

山の写真集など、「読む」では山岳雑誌や山岳小説など、「登る」では山のガイドブックや福島県内の山開きに関する情報誌などの資料を展示した。

併せてパスファインダーを作成し配布した。

ウ まほろん移動展「会津盆地と弥生時代」

(6月5日～7月1日)

公益財団法人福島県文化振興財団との共催事業として、平成27年2月7日～5月10日にかけて、福島県文化財センター白河館で開催した「まほろん収蔵資料展磐越自動車道の遺跡－会津盆地の弥生時代－」の移動展を行った。ふるさとにどのように文化が伝わり展開したのかをテーマに、会津盆地の遺跡から発掘された資料を展示し、会津盆地の弥生時代を紹介した。

併せて、福島県文化財センター白河館の専門学芸員・佐藤啓氏による関連講座「会津盆地の弥生時代－その展開と背景－(第1回ふくしまを知る連続講座)」を実施した。

エ 「復刻雑誌展」(7月3日～8月5日)

『青鞥』『明星』など教科書でも採り上げられた雑誌を中心に、当館で所蔵している“復刻された雑誌”を紹介した。

雑誌に関する理解と認識を深め、図書館資料としての雑誌の利活用促進を図ることを目的とした。

オ 「戦後70年展 本や雑誌でたどる文化史」

(8月7日～9月2日)

戦後70年の節目に、戦後の復興期から経済成長を遂げて今日に至るまでの世の中の流れについて、「文化」を中心に、それぞれの時代の関連資料を展示し、併せてその時代に読まれていた作品などを紹介した。

カ 「浜通りの記録をたどる資料展」

(9月4日～9月30日)

震災から4年半が経過することに合わせ、当館が連続と収集・保存してきた、震災前までの浜通り地方に関する資料を展示し、描かれた歴史や文化を通して、地域に対する意識と図書館の役割を再認識する機会とした。

キ 福島県歴史資料館移動展「花と温泉」

(10月2日～11月4日)

公益財団法人福島県文化振興財団との共催事業として、7月18日～9月27日にかけて、福島県歴史資料館で開催した「収蔵資料展花と温泉－かおりと湯けむりの記憶－」の移動展を行った。福島の魅力の一つである「花」と「温泉」の史料を展示した。併せて、福島県歴史資料館の学芸員・小野孝太郎氏による講座「史料に見るふくしまの温泉(第2回ふくしまを知る連続講座)」を実施した。

ク ふれあい歴史館移動展「福島の引札」

(11月6日～12月2日)

福島市教育委員会との共催事業として、福島市ふれあい歴史館が所蔵する引札の展示を行った。江戸時代から大正末期にかけて、福島市内の商店等が配布した色鮮やかな引札約40点を展示した。

併せて、福島市史編纂室の柴田俊彰氏による講座「引札が語る商業のまち福島の歴史（第3回ふくしまを知る連続講座）」を実施した。

ケ 福島県立博物館移動展「藤井康文恐竜イラスト展」

(12月4日～平成28年1月6日)

福島県立博物館との共催事業として、同館が所蔵する、イラストレーター・藤井康文氏の恐竜イラスト原画11点を展示した。

コ 「鉄道の歴史」(平成28年1月8日～2月16日)

平成28年3月の北海道新幹線の開業に合わせて、日本の近代化の象徴でもあった「鉄道の歴史」をたどり、貴重な蒸気機関車の写真集や古い時刻表、鉄道関連の本や雑誌・新聞記事などを展示した。また、人気のイベント列車や全国の駅弁など、鉄道をより楽しむための資料も紹介した。

サ 「東日本大震災5年展～あのとき そして これから～」(平成28年2月27日～4月6日)

東日本大震災から5年。震災を振り返り、忘れずに未来へ伝えていくため、震災記録の写真パネル(日本図書館協会より借用)や、当館所蔵の「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の図書等を展示した。また、復興に向けた活動を掲載した図書や写真集、新聞などを紹介し、これからのを考える機会とした。

(2) ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県民に作品発表の場を提供した。

ア 「折り紙手紙展」(4月3日～5月6日)

イ 「手漉き和紙に魅せられて」(5月8日～6月3日)

ウ 「水彩画展」(6月5日～7月1日)

エ 「第4回〈えがく会〉展」(7月3日～8月5日)

オ 「みんな知ってる絵本の絵展」(8月7日～9月2日)

カ 「「海柘榴(つばき)展」Re」(9月4日～9月30日)

キ 「「横井薫 鉛筆画」展」(10月2日～11月4日)

ク 「第7回網代澄亭と一門による刻字展」

(11月6日～12月2日)

ケ 「まなべゆきお 油絵近作展」

(12月4日～平成28年1月6日)

コ 「くらしに花を～アーティフィシャルフラワーの魅力～」

(平成28年1月8日～2月16日)

サ 「翡翠」(平成28年2月25日～4月6日)

(3) 「梶井宮御流福島支部春季華道展」

長年ボランティアで当館に生け花を提供して下さっている方々による華道展を開催した。

期間 平成28年3月4日～3月6日

場所 エントランスホール及びセンターホール

(4) 「私のおすすめ本 メッセージカードコンテスト」展

県内の子どもたちが、感動や勇気をもたらした本を1枚のカードで紹介するコンテストの優秀作品25点と、該当図書を展示した。

期間 12月24日～平成28年1月24日

場所 エントランスホール

14 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

(1) 文化講演会

ア 期 日 9月25日

イ 会 場 福島市アクティブシニアセンターA・O・Z
(アオウゼ)

ウ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館
図書室職等 52名

エ 演 題 「図書館は、国境をこえる
～カンボジアから東北へ～」

オ 講 師 (公社)ジャンティ国際ボランティア会
広報課長兼東日本大震災図書館事業
アドバイザー 鎌倉幸子 氏

(2) 福島を知るための連続講座

第1回「会津盆地の弥生時代―その展開と背景―」

6月21日

講師 福島県文化財センター白河館 佐藤啓 氏

参加者21名

第2回「史料にみるふくしまの温泉」 10月18日

講師 福島県歴史資料館 小野孝太郎 氏

参加者40名

第3回「引札が語る商業のまち福島の歴史」

11月15日

講師 福島市史編纂室 柴田俊彰 氏

参加者62名

第4回「京都清水寺と大笹生斗蔵観音」 12月6日

講師 福島県考古学会顧問 鈴木啓 氏

参加者91名

第5回「亜細亜と欧州を結ぶ～須賀川の銅版画家亜欧堂田

善が見た世界～」 平成28年1月24日

講師 福島県立美術館 坂本篤史 氏

参加者53名

(3) 入館者700万人達成記念事業

昭和59年に現在地で閉館してからの入館者数が700万人に達したことを記念して、記念事業を行った。

「達成記念イベント」

10月18日、入館者700万人目の利用者へ記念品(図書

カード)と花束を贈呈した。

「記念品の配布」

当館所蔵の錦絵をポストカードにした記念品を作成し、来館者へ配布した。絵柄は福島県の3地方にちなんだものとした。

浜通り：『諸国名所百選 奥州相馬妙見祭馬追の図』

中通り：『福島県岩代国福島町信夫橋眞景ノ図』

会津：『府県名所図会 福島県岩代猪苗代湖』

「記念展示」

開館当時、100万人、200万人・・・600万人達成の年を象徴する資料の展示を行った。

(4) 読書週間事業

読書週間にあわせて、開館時間を延長した事業を実施した。「秋の夜長を図書館で～特別な夕べ～」

開催日 10月31日

開館時間 9:30～21:00 (通常17:30まで)

「特別展示」

貴重資料「阿武隈川水路図」の展示と福島市史編纂室の守谷早苗氏によるギャラリートークを行った。

「語りを楽しむ夕べ」

ふくしま民話茶屋の会の方による昔話の語りを聞く会を開催した。

「図書館見学」

公開図書室や書庫の案内を行った。

た。

(4) 文化施設連携事業

県内文化施設間の連携を図ることを目的に、福島県文化財センター白河館の事業(まほろん冬まつり)に参加し、移動図書館を県民に開放するとともに、延べ68冊の資料を貸出した。

移動図書館「あづま号」貸出状況・推移 (単位:冊数)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
23,376	25,589	26,330

2 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。

平成27年度の利用状況は次のとおりである。

本宮市教育委員会	2,447冊
喜多方市教育委員会	477冊
川俣町教育委員会	490冊
西郷村教育委員会	608冊
平田村教育委員会	549冊
西会津町教育委員会	300冊
合計	4,871冊

第4節 館外奉仕

1 移動図書館「あづま号」

以下の目的により巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計26,330冊の資料を貸出した。

(1) 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。19自治体に巡回し、延べ21,639冊の資料を貸出した。

(2) 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な6自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しを行った。

該当自治体が設置する、仮設校及び仮設住宅等を巡回対象とし、仮設校に対しては、楡葉町・大熊町・葛尾村・飯館村の4自治体の幼稚園、小・中学校を延べ12回巡回し、2,101冊の貸出しを行った。その他、葛尾村の仮設住宅及び川内村公民館、浪江町の仮設図書館に対し、1,585冊を貸出した。

(3) 特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、西郷養護学校と富岡養護学校の2校を巡回し、延べ927冊の資料を貸出し

3 福島県立図書館資料の譲与

再活用が十分見込まれる資料を、県内高等学校に対し譲与し、学校図書館蔵書の充実を支援した。

平成27年度の利用状況は次のとおりである。

県立ふたば未来学園高等学校	592冊
県立相馬東高等学校	79冊
県立光南高等学校	30冊
合計	701冊

また、更なる活用を図るため、高等学校・図書館・公民館としていた譲与対象枠を外した「図書リサイクル会」を実施し、小学校・保育園を中心とした県内41の団体に対し、4,110冊の資料を提供した。

4 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出しを行い、学校図書館読書・学習環境を支援した。

平成27年度は、県立ふたば未来学園高等学校に対し、1,500冊の資料を貸出した。

5 学校図書館活動支援セット貸出

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校および特別支援学校、小・中学校等に対して、

その図書館活動の充実を図ることを目的に、118テーマ（延べ277セット）を編成し貸出を行った。

27年度の利用状況は、16団体に対し63セット（2,769冊）を貸出した。

6 広報資料の発行

(1) 館報「あづま」

新館移転後の入館者700万人達成を主たる記事構成とし、第65巻（通巻269号）を11月26日に発行した。

(2) 平成27年版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書（データ版）

図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から、県内公共図書館・公民館図書室の実態調査を実施し、報告書としてまとめ、県立図書館ホームページに掲載している。

主な調査結果であるが、4月1日現在、市町村図書館と公民館図書室の合計蔵書冊数は6,429,455冊で、県民1人当たり3.36冊（前年度3.23冊）、年間増加冊数は421,454冊である。

また、平成26年度中の貸出図書冊数は、6,867,451冊（県民1人当たり3.58冊）であり、前年度と比べると総冊数では、178,448冊の増である。

(3) 福島県郷土資料情報

第56号を発行。貴重郷土資料探照は企画展示に併せ『磐城郡村誌』『宇多郡村誌』『石城郡誌』など浜通りの郡村誌・郡誌・郷土誌を紹介し、連載記事としては福島の児童文学者・福島県関係書誌の紹介をまとめた。

第5節 図書館協力

1 相互協力と遠隔地返却

協力貸出（他館との資料の貸借）サービス、遠隔地返却（当館資料を他館に返却する）サービスを行っている。

前年と比べて利用は減少した。

相互貸借状況

区分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸出	1,003	4,769	448	701	1,451	5,470
借用	129	231	86	138	215	369
小計	1,132	5,000	534	839	1,666	5,839

相互貸借状況・推移 (単位：冊)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
5,981	6,652	5,839

遠隔地返却冊数・推移（利用者が来館し、直接貸出しを受けた資料を県内公立図書館に返却した冊数） (単位：冊)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
5,788	6,205	5,924

2 図書館協力車事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。また、協力貸出（資料の貸借）などの資料の搬送支援を行った。平成27年度は、7コースを編成し、26自治体と2高等教育機関に対し巡回した。

3 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

(1) 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

- ア テーマ 「図書館サービスの基本」
- イ 期 日 5月27日
- ウ 会 場 福島市中央学習センター
- エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 88名
- オ 講 師 県立図書館職員

(2) 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

- ア テーマ 「レファレンスサービスとコミュニケーション ～演習を交えて～」
- イ 期 日 11月23日
- ウ 会 場 県立図書館
- エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 46名
- オ 講 師 多摩市立関戸図書館長 阿部 明美 氏

(3) 福島県内図書館初任者職員実務研修

- ア 期 日 6月17日～19日
- ウ 会 場 県立図書館
- エ 参加者 県内図書館職員等 4名
- オ 講 師 桜の聖母短期大学講師 木川田 朱美 氏
県立図書館職員

4 第13回福島県図書館研究集会

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な業務研究会を行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を図ることを目的に実施している。

- ア テーマ 「見つめ直す図書館の姿
～出版文化の変化を視点として～」
- イ 期 日 10月30日
- ウ 会 場 白河市立図書館
- エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 42名

オ 内 容

①講演

- ・テーマ 「図書館を取り巻く現状と
取り組むべき課題
～出版流通の問題も踏まえて～」
- ・講 師 元日本図書館協会事務局長 松岡 要 氏

②シンポジウム

- ・テーマ 「地域文化を支える図書館とは」
- ・パネラー 元日本図書館協会事務局長
松岡 要 氏
白河市立図書館 館長 田中 伸哉 氏
南相馬市立中央図書館 司書
高橋 将人 氏
- ・司 会 県立図書館 専門司書 吉田 和紀

5 子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト

東日本大震災で被災した子どもたちや親たちが、本とのふれあいを通して心を癒やすことを目的に、読み聞かせなどを行うフェスティバルを、平成26度より開催している。

プロジェクト実施に併せ、子どもたちに出会って欲しい絵本を紹介したブックリスト「絵本はともだち～あかちゃんと絵本を～」 「本はともだち～子どもと楽しむせかいのむかしばなし～」を作成配布した。

(1) 「絵本はともだち」

- ア 期 日 7月25日
- イ 会 場 南相馬市立中央図書館（南相馬市民情報交流センター）
- ウ 参加者 子どもと保護者・保育従事者・読書ボランティア・その他関係者等 80名

エ 内 容

①講演

- ・テーマ 「親子で楽しむおはなしの世界」
- ・講 師 幼児教育専門家 藤田 浩子 氏

②おはなしかい等

- ・実演者 新地町図書館ボランティア「スイミー」

(2) 「本はともだち」

- ア 期 日 11月3日
- イ 会 場 会津若松市生涯学習総合センター
(会津稽古堂)
- ウ 参加者 子どもと保護者・学校・保育関係者・読書ボランティア・その他 152名

エ 内 容

①講演

- ・テーマ 「おはなしや本の世界を楽しもう」
- ・講 師 浦安市教育委員会 主査 伊藤明美 氏

②おはなしかい等

- ・実演者 浦安市教育委員会 主査 伊藤明美 氏

6 県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、「福島県内大学図書館連絡協議会」の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。また、平成27年度は年度幹事館として、状況に照らした相互協力体制維持のため、その連絡調整に努めた。

同協議会には、県立図書館の他、県内20の市町村立図書館が参加館として参加している。参加している図書館は、福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館、本宮市立しらさわ夢図書館である。

さらに、福島大学附属図書館、及び、福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふくネット」を締結し、それに基づき活動を行った。